

データ分布の見方用語のまとめ

各階級について、最初の階級からその階級までの度数を合計したものを という。

全体の度数が異なる異なるデータを比較するときには、度数の代わりに、度数の合計に対する割合を用いるとよい。この値を という。各階級について、最初の階級からその階級までの相対度数を合計したものを という。

度数分布表から、度数や相対度数を柱状に整理した図を といい、おのおの長方形の上の辺の中点を結んだ折れ線を という。

データの分布の特徴を調べたり伝えたりするときにデータの代表的な値を用いることがある。このような値を という。

個々のデータの値の合計をデータの総数でわった値を という。調べようとするデータの値を大きさの順に並べたときの中央の値を という。また、データの中でもっとも多く出てくる値を という。度数分布表では、度数のもっとも多い階級の階級値を用いる。データの散らばりぐらいを表す数値として、最大値から最小値をひいた値を用いることがある。このような値を分布の という。

結果が偶然に左右される実験や観察を行うとき、あることがらが起こると期待される程度を数で表したものを、そのことがらの起こる という。確率が p であるということは同じ実験や観察を多数回くり返すとき、そのことがらの起こる が p に限りなく近づくという意味をもつ。